

右申酉御櫓 左戌亥御櫓
 御貯土藏二筋 定番御歩 小頭役所
 同續枳御門 出三三 切戸口三三
 三階御櫓 石壇二つ
 埋御門 又御臺所口御門共 鐵御門續也
 三拾間御長屋 出二つ 石壇
 同續御櫓
 同所疊御舞臺昔有之。
 薪丸の下の御櫓 左右御門
 薪丸御門 土御番所 足輕番所
 御土藏三つ 表御納戸役所 雁木坂
 極樂橋 から堀之内御門
 新埋御門
 柿木門 此内坂五正建御厩也
 但、此御門文化五年御造營之節挽戸に成。間違敷。
 鶴之御丸等之部
 石川御門續 御櫓之續
 中御櫓 當時此所に出有之

から堀 同高出二つ
 水手御門御長屋 石壇左右二つ
 御乳母池 昔御歩番所有之、後明番所と成
 同所入口小坂
 東御丸等之部
 附壇御門 出二つ 足輕番所
 御土藏二つ 一ヶ所は御武器 一ヶ所は御茶具
 唐御門 土御番所 足輕番所
 御泉水 橋有之
 大がね 小獅子 大獅子御土藏
 此御土藏未被仰付。
 御門續御長屋
 丑寅御櫓 中御櫓
 辰巳御櫓 入口二つ 廊下出五つ 切戸口九つ
 四枚戸 八枚戸
 石壇 大シノギ角 中御櫓 小シノギ角 中御櫓
 同續御櫓 御建方外御櫓と違

申酉御櫓下隠御門
 高御石垣下御土藏四筋 足輕番所
 稻荷屋敷入口御門
 東御丸下 犬走二つ・三つ
 内車橋御門 足輕番所
 石川御門外之部
 蓮池御堀 御堀の内水留の上枳
 白鳥堀縁枳 鑓留足輕番所
 石川御門外枳 鑓留足輕番所
 水御門 下馬 脇懸脇御門
 紺屋坂御門 内枳の内小口
 新坂枳御門
 蓮池御庭 程乘屋敷と云
 坂之上御門 上下に二枚開有之、一番口二番口と云
 坂下御門 内二枚開御馬場に行く
 車橋外御門
 終

奥書
 右文祿以來傳來之舊記、並近來之趣等書加、奉_レ上之候。以上。
 于時文政八乙酉年十一月吉祥日 後藤彦三郎 判
 右城内諸曲輪櫓・堀・樓門・庫倉・番所等、寶曆九年火災以前の模様を、舊記等に據りて大手先以下諸曲輪を別に記載す。寛永八年二ノ丸を本城となし、利常卿の造營し給ふ建物共、寶曆火災の時まで存在せしものなれば、寛永以來の体裁を考ふべき考證とするに足れり。この文を記したる後藤彦三郎は、穴生方と稱し、石工の棟梁也。享保九年の土帳に、町奉行支配人穴生七十石奥源右衛門、後藤木工兵衛、天明三年の土帳に、穴生御徒七十石奥源右衛門、五十俵後藤用助、三十五俵後藤元右衛門。とありて、彦三郎は其の一族也。
 ○城主傳略
 金澤府城主の鼻祖は、佐久間玄蕃允盛政なり。盛政が先祖は鎌倉幕府に従ひ、安房國佐久間庄の地頭職と成り、世々佐久間庄を領す。故に佐久間と稱す。中古の祖佐久間久右